

暑い季節になりました。汗など体の表面から失われる水分が多くなります。

状況に合わせた十分な水分摂取が必要です。

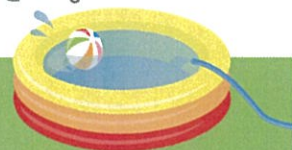
高血圧の治療のため、利尿薬を飲まれている方は  
特に脱水や、血圧の下がりすぎに注意してください。

さて、川島病院では本年5月から血液検査の多くを病院内で行えるようになりました。

「肝機能検査」「腎機能検査」「脂質検査」など、これまでよりも多くの検査項目が  
採血日の診察時に結果を説明できるようになりました。

採血結果は30分を目指しておりますが、

項目などにより少し待ち時間が長くなる場合がありますがご了承ください。



## 薬の話

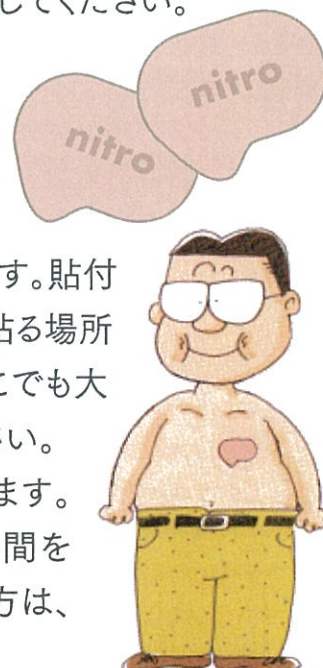
### ニトグリセリンの話 その3

ニトグリセリンは消化管で吸収されると、すぐに肝臓で分解されるため、内服しても効果がありません。そのため内服薬は存在しませんが、口の粘膜から吸収される舌下錠、皮膚から吸収される貼付剤、静脈注射や点滴用の製剤など多くの剤型があります。舌下錠の使い方は「ハートニュース2014年7月vol.7」に書いていますので参考にしてください。

今回は貼付薬についてお話をします。舌下錠は口腔の粘膜から吸収されますが、ニトグリセリンは皮膚からも吸収されます。ニトグリセリンを含んだ製剤を皮膚に貼り付けます。徐々に吸収されるように工夫されており、長時間の効果を得ることができるようになっています。

現在使われているものは、フィルム状のものとパッチ状のものがあります。貼付すると約30分で効果が発現し、12時間～24時間効果が持続します。貼る場所は胸でなくても、背中や大腿部など皮膚の柔らかい場所であればどこでも大丈夫です。かぶれることがありますので、場所を変えるようにしてください。

ニトグリセリンは長時間続けて使うと、効果が悪くなる性質があります。貼付剤は1日中貼り続けるのではなく、数時間貼付していない時間を作ったほうが効果があります。昼間の運動時の狭心症発作が起きる方は、夜間は剥がしておく方が貼ったときの効果が強くなります。

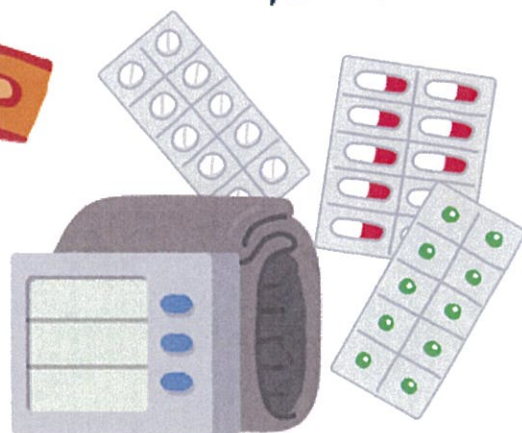


## 病気の話 【災害と循環器疾患 2】

前回は、災害時に増加する疾患として  
「肺塞栓・深部静脈血栓症」  
「急性心筋梗塞、心不全」について説明しました。  
今回は「災害高血圧」と「たこつぼ心筋症」についてです。

### 災害高血圧

災害によるストレスや  
避難所での生活、  
睡眠障害などにより、  
交感神経緊張状態になり、  
血圧が上昇しやすくなります。  
また、保存食は塩分を多く含んでいることがあり、  
これも血圧上昇の原因になります。  
加えて、災害での薬剤の紛失、薬剤が入手困難に  
なることもあり、更に血圧の管理が難しくなります。



### たこつぼ心筋症

たこつぼ心筋症は、胸痛で発症する疾患で、心臓の一部が特徴的に動きが悪くなります。心臓が収縮した時の左心室の形が「たこつぼ」に似ているので、この名称がついています。症状や心電図変化が心筋梗塞と似ており、鑑別が必要です。この病気はストレスが発症に関与すると言われていています。精神的に大きな衝撃を受けたことをきっかけに発症する場合があります。災害時のストレスでも発症が認められており、2004年の新潟県中越地震時の発症が有名です。

